

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



9月27日におこなわれた自然と親しむ会では、花の文化園までの道のりの風景もおおいに楽しんだ。

### Contents

- 運営懇談会にご参加ください ..... P 2
- 年末寄付のお願い ..... P 2
- あの人の人 ..... P 4
- 黄土高原紀行 ..... P 6
- 大同緑化協力 25年の軌跡 ..... P 7

2020.11  
196

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



参加者募集

**ONE WORLD FESTIVAL for Youth 2020 online**  
わたしたちが描く  
持続可能な社会の未来図

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth は、高校生が主体となって国際課題の理解を深め、国際協力、SDGs を身近に感じ、具体的なアクションに移すフェスティバルです。

毎年会場を借りて行っていましたが、今年はオンラインで開催し、ポスターセッション、高校生活動報告会、NGO によるセミナーなどを開催します。

GEN は毎回 NGO 活動紹介ブースに出展していましたが、今年は動画配信活動紹介ブースで動画を配信します。高校生以外の方も、もちろん参加可能です。開催終了後も1か月は活動紹介ブースの動画を閲覧できますのでぜひご覧ください。

○日時：12月20日(日)10時～16時  
○開催場所：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ内特設ページ

○参加方法：事前申込制。11月20日(金)以降にワン・ワールド・フェスティバル or Youth 内特設ページよりお申込みください。

○主催：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会、特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会

○参加費：無料

○問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 事務局 (〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 4階 (関西 NGO 協議会) tel. 06-6377-5144 e-mail: youth\_expo@kansaingo.net URL http://owf-youth.com)

## 蔚県郷土樹木園の建設は 2020年にも順調に進んでいます

コロナ禍のために現地を訪れることはできませんが、中国での緑化協力は確実に継続されています。蔚県の属する張家口市では43人の感染が確認されたようですが、全員が治癒退院し、死者はでていませんし、蔚県では感染者の確認もありません。

蔚県壺流河国家湿地公園(1740ha)の一角に建設中の樹木見本園「蔚県郷土樹木園」(16.67ha)は3年目を迎え、春に新たに3種65本、秋に4種100本を導入しました。昨年までのものとあ



現地スタッフが灌水作業をおこなう

わせて108種2154本になり、灌水、除草、病虫害防除などの作業も確実になされています。大きな問題は発生していないようですので、当初の目標の100種を超えることは確実にになりました。

ここは蔚県の観光名所・蔚州古城と玉皇閣に近く、訪れる人の多い公園ですので、たんに植えるだけでなく、その後の管理にも力をいれ、見栄えをよくすることも課題のよう。樹木には名称、特徴、分布などを簡潔に紹介していますが、昨年試験的につけられたプラスチック板によるもののほか、デザインと耐久性の工夫をしたものも設置されました。

湿地公園の重要な目的に野鳥とりわけ渡り鳥の保護があります。それを訴えるため昨年は野鳥の写真をそえたパネルが各所に設置されましたが、それに加えてコンクリートのオブジェに絵を描いたり、巣箱をかけたっています。

参加者募集

## GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑭ 奈良公園で紅葉を楽しむ

前中代表と歩く「野の道」シリーズ、今回は古都奈良を代表する観光地、奈良公園を訪れます。シカや東大寺が有名な奈良公園ですが、12月は園内の紅葉が美しい時期です。紅葉の季節、奈良公園を散策して一緒に自然観察を楽しみませんか。

○日時：12月6日(日)10時～15時ごろまで

○場所：奈良公園(奈良市春日野町)  
○集合：10時に「近鉄奈良」駅東口行菩薩の噴水前

○案内：前中久行さん(GEN代表)  
○参加費：500円(保険料を含む)

○定員：15名  
○持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、敷物、雨具、あれば植物図鑑

○申込み・問合せ：12月2日(水)

までにGENまでお名前、生年月日、連絡先をお知らせください。  
※小雨決行  
※状況により変更・中止の可能性あります。



## 運営懇談会に ご参加ください

### ～今年もオンラインで開催します～

2010年より始まったGENの運営懇談会を今年も開催します。毎年東京と大阪の会場で開催していましたが、今年もオンラインで1回のみ開催です。関東、関西以外にお住まいでこれまで参加がむずかしかつた方も、オンラインなら場所を選ばず参加できますので、この機会にどうぞご参加ください。

運営懇談会はGENを支える会員のみならずと議論しながら自由に意見やアイデアを出していただく場です。これまでに運営懇談会での議論や提案から活動に取り入れたアイデアが数多くあります。

これまでの活動の振り返りや、活動

開始から30周年に向けて、GENの活動について会員同士で知恵を出し合い、議論する場にしたいと思います。

○日時：12月12日(土)13時～16時ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○参加方法：参加を希望される方は12月10日(木)までに表題を「運営懇談会参加」としてGENまで(gen@gen-tree.org)メールをお送りください。後日、運営懇談会のメーリングリストよりZoomのミーティングIDとパスワードをお知らせします。運営懇談会のメーリングリストに加わっていない方は、後日GENより招

待メールをお送りします。12月11日(金)までに届かない場合はGEN事務所までご連絡ください。

オンライン運営懇談会参加の流れ

・Zoomアプリをインストールする

※注意：必ずzoom.usのサイトからダウンロードしてください。検索サイトで「zoomダウンロード」で検索すると上位に出てきます。

・招待メールを受け取る

・当日招待メールに記載されているURLにアクセス、もしくはミーティングIDとパスワードを入力して参加する。



金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。

## イベント中止の 報告

10月10日に予定していたGEN自然と親しむ会 秋のキノコ観察会は、悪天候のため中止しました。

また、10月30日～11月1日に予定していたGEN 関東ブランチ 秋の西伊豆合宿も中止しました。

## 年末寄付のお願い みなさまのご協力をお願いいたします

新型コロナウイルスに大きな影響を受けた1年が終わろうとしています。2020年度はスタディツアーもスタッフも中国への派遣がかなわず残念でしたが、7月の会報で夏季寄付を呼びかけたところ、昨年を上回る多くの方々からのご寄付が寄せられ、大きな励みとなりました。

しかしながら、今年度の寄付予算800万円に対し、9月末時点での寄付金額は約168万円と、たいへん厳しい状況が続いています。この困難な時期を乗り越えるために、みなさまのご協力をどうぞお願いいたします。

緑化基金、運営資金、東北海岸林再生、どの項目へのご寄付も歓迎いたします。おまかせ寄付にさせていただくと最も必要とされている部分に充当させていただきます。

発送作業の都合上、郵便振替の用紙を一律に同封します。最近にご協力いただいたかたには重ねてのお願いではありませんのでご了承くださいませ。ようお願いいたします。

GENへの寄付はクレジットカード決済が可能です。くわしくはGENのホームページ([https://gen-tree.org/join\\_donate/credit.html](https://gen-tree.org/join_donate/credit.html))をご覧ください。

【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です(期限は2024年4月8日まで)。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損

## あの人の人



「あの人の人」では、個性豊かな GEN 会員のあれこれをご紹介します。

このコーナーでご自身を紹介して下さる GEN 会員を募集しています。ご自身が続けている活動のアピールなどでも結構です。「我こそは」というかたは GEN までご連絡ください。

### 鶴田 惇さん (茨城県)

・簡単に自己紹介をお願いします。  
漢方薬メーカーで、漢方薬の原料である「生薬」の栽培・調達担当をしています。学生時代に参加した GEN のツアーで、中国の自然の多様性、人の自由さに魅了され、北京林業大学に1年間留学しました。その後、植物&中国をキーワードに就職活動をして現職に就きました。GEN との出会いで人生が変わった一人だと思っています。

・いつから GEN に参加しましたか？  
大学の授業で紹介されていて興味を持ち、2011年春のツアーに参加したのがきっかけです。そのツアーでは、道路建設のため白登苗圃の引越しが目前になっているということで、アンズの苗(苗といっても2mくらい)を移植する作業をしました。なかなかハードでした。中国での、道路建設・立ち退きが決まるスピードに驚かされました。

・GENに入ったきっかけは？  
日本では見られない黄土高原の風景

に惹かれたことが大きいと思います。また、尖閣諸島を巡り日中政府が対立していた時期でしたので、GENの掲げる「国境を越えた民衆の協力」に共感し、私も何かしたいという思いもありました。

他には、大同でのお昼ご飯の時に、高見さんから「ここでは、白米に白酒をかけて食べるんだ」と聞かされ、見事に騙されてしまい、その場で実践。その時の高見さんのしたり顔に惹かれたことも理由の一つです。

・印象に残っている GEN の活動は？  
大同ツアー、その後の蔚県のツアーにも参加し、ツアー内容はもちろん、一緒した方からも大きな刺激を得ています。2011年夏の専門家派遣団に参加させていただいた時は、中国在住の Tさんと相部屋になりました。ホテルの部屋で夜な夜な中国の面白さを語っていただき、感化され、日本に帰る頃には中国留学への申請方法を教えてもらっていました。その後、本当に申請をし、1年間留学しました。中国留学中

は会員の Mさんにもお世話になりました。

・GENの良いところは？ 期待することは？

単一的な植林ではなく、地域の植生・人の生活を考えた植林を先進的に実施してきたことがすごいことだと思います。植物の専門家のみならず、色々な経歴・専門の方が関わっていらっしゃいましたので、枠にとらわれない活動ができたのだと思います。

そんな GEN 中心メンバーの方々には年齢が高くなってきていますので、大同での実績と、現在の蔚県での取り組みを、今後どのように展開していくかが課題となると思います。これまで若手ということで、GENの皆様には大変良くしていただきましたので、私も微力ながらアイデアを出していければ、と思っています。

・会員のみなさんへひとこと  
一緒に円卓を囲んで乾杯できる日を楽しみにしています！！

## いままぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！  
緑の地球ネットワーク会費 (年額)

一般会費	12,000円
家族会費 (同居の家族2人目から)	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員 (中学生以下)	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！  
GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。

■緑化資金、運営寄付もとむ  
金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要

に応じて使わせていただきます。  
\*緑化資金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』  
8枚組・300円 (送料別途。5セット以上送料別途)

■書き損じはがきを集めています  
書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています  
普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集  
会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

## 夢は黄土高原をかけめぐる

吉弘 浩子

(旧サントリー労働組合、10月2日より改め THE SUNTORY UNION)

サントリー労働組合は長年にわたりツアーを派遣し、緑化活動はもちろん、現地の人たちとお酒を酌み交わして交流を続けていただいています。組合で毎回活動を支えていただいた吉弘さんよりメッセージを寄せていただきました。

黄土高原は遠い。

サントリー労働組合では、1998年よりほぼ毎年、黄土高原で体験型セミナーを続けてきました。わたしは事務局として携わってきたうえで、現地1日目、北京から大同までの距離をいかにスムーズに、いかに有意義に移動するかに苦慮した覚えがあります(逆にいうと2日目以降は GEN さんのプログラムどおりでした)。

実際にこのセミナーにも2回参加し、植樹と交流を体験したこともあります。

初回訪問時の GEN さんお任せプログラムは、白登山古戦場跡から始まりました。ぬけるような青空の下に立つ白登山の石碑を所在なく眺めたのを機に、薦められるがままに『項羽と劉邦』を読み、さらに北方謙三の『水滸伝』『楊

令伝』『岳飛伝』と進むにつれて、北京から大同までの地理的な重要性に遅まきながら気づきました。興味への扉は、移動のバスの中だけでなく、窓外にも開かれていたことでしょうか。もしかするとカササギの森あたりも、つわものどもが夢のあとであったのかも知れません。

関係者が濃い。

GENさんをはじめ、植樹プロジェクトに関わるみなさんの多彩なこと、そしてエネルギーなこと。植樹の当初の目標は達成されながらも、また新たな活躍の場を広げられるとは、こちらのつわものどもは、まだ夢の途中におられるようです。

サントリー労働組合からの参加者たちも、その後社内外をかけめぐって



ます。

また何回かのセミナーを共同開催して下さったイオンリテールワーカズユニオンの方たちの取り組みにも、折にふれ関心を持って拝見しています。

最後に私ごとで恐縮ですが、この9月末でサントリー労働組合を退職しました。これまでのみなさまのご厚誼に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げますとともに、ますますのご活躍を楽しみにしています。



## 秋満喫！野の道を花の文化園へ

向井 美香 (GEN 世話人)

9月27日(日)、GEN自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑩ 花の文化園で自然観察をおこないました。12名が参加しました。

前中代表と歩く「野の道」シリーズ、今回は「花の文化園で植物観察」でした。河内長野駅から15分ほどバスに乗車。市内から山の中腹へ向かうも、終点の「旭が丘」は開発華やかかなりし頃の広い住宅地。野の道ははずこに…。が、戸惑いはすぐに霧散。バスの終点からほど近い空き地奥の階段を下ると、たわわに実をつけた栗の木がお出迎え。山村の棚田に広がる黄金色の稲穂と真っ赤な彼岸花のコントラストも鮮やかな原風景に、参加者から一斉に「わあ！」と歓声。

田んぼを抜け、樹々がうっそうと茂る道を下り、汐滝橋から石川の溪流をながめ、田園地帯を通って花の文化園へ。途中、カーテンのように仕立てられたイモの葉があり、その場にいた地

元の人に尋ねると、「宇宙イモ」。葉の間から実を見せてもらおうと、大きさも形もパック牛乳のような四角。むかごの一種なのだそう。宙に浮き、隕石のような形からの命名とか。おもしろいもん見た、知ったー！ こうした小さな交流も、散策の楽しみのひとつ。

メインの花の文化園は季節ごとの花が咲く各種ガーデンと大温室を備え、イベントや講座が随時開催されて花にまつわる文化も楽しめる。コロナの影響もあってか、園内は家族連れが数組ほど。おかげで小鳥の声や虫たちの姿も愛でつつ自由に観察できた。女性陣に人気を博したのはジンジャーリリー。事務局の河本さんがいち早く見つけるや、我も

我もと花に取り付き、香りを吸い尽くしてしまう勢い。清楚にして馥郁たる温もりを感じる香り。女性が憧れる女性、かも。バラ園では四季咲きが見ごろ。白バラの前で足を止め、「ドイツで開発されたアイスバーグ、別名シュネーヴィッチェン(白雪姫)。夏に強い品種で、近年の温暖化に対応して広まっています。左右にアイスバーグが咲く白い道がとてもいい」と、前中さん。

野の道、畔道と秋をたっぷり味わった一日、次は白い道の時期(5月)に、白雪姫に会いに行こう！





黄土高原紀行<1>  
はじめに

2001年5月号から始まった谷口義介先生の『黄土高原史話』の連載ですが、前号で100話の節目となりました。今号から史話はちょっとお休みして、しばらくの間、黄土高原紀行を連載します。

京都にあるNPO文字文化研究所は、書道関係のバックがあるためか財政的に豊からしく、文字に関するさまざまな啓蒙活動を行なっているが、白川静先生が90歳をまえに理事長を引受けられてから、私も多少の縁をもつようになった。

そして、白川先生による年4回の文字講話が大好評のうちに進行中の2002年、文字研は「文字探訪：華北〈天と地と仏たち〉」をキャッチコピーに中国旅行を企画。〈文字〉と〈仏〉がどう関連するのか私にはよくわからないが、〈華北〉でめぐるのは大同、五台山、太原だという。このうち五台山と太原にはまだ行ったことがないので、参加

谷口 義介 (GEN 会員)

することにした。

団長は文字研副理事長の上平 貢 先生(京都市美術館館長)で、参加者は32名。ほとんどが書道、篆刻、拓本のプロか愛好家である。男性18名、女性14名。西宮の谷口夫妻、カメラマンの谷口氏と、同姓組が4名。

8月18日(日)、関空から北京へ。午後、故宮博物院の漱芳齋にて、学術書の贈呈式。これは白川先生の字書三部作『字統』・『字訓』・『字通』と『著作集』全12巻を、北京大学など日本語学科のある11大学に1セットずつ寄贈するというもの。日中国交正常化30周年の記念事業の一つとして行なわれたため、日本大使館より大使と公

使、中国側から国務院の高官も列席。上平団長の挨拶のあと、阿南惟茂大使と故宮博物院の副院長の祝辞、そして北京大学図書館副館長の謝辞があった。

セレモニーのあと、

がくしでん 楽師殿などで貴重な文物を鑑賞。これも特別なはからいで、故宮の城壁の上にもものぼらせてもらった(写真)。

夕刻より、故宮内の餐厅にて祝宴。「満漢全席」とはゆかないが、さすがに豪華な料理。まず乾杯は茅台酒で。政府主催のレセプションや佳節の宴などで出されることから、国酒とか礼賓酒とかよばれる。30年まえ、人民大会堂で周恩来総理と田中角栄首相が杯を交わしたときの酒も、もちろん茅台酒だった。

その夜、北京西駅より、22時15分発の寝台特急で大同へ。

二段ベッドが向き合った、1室4人のコンパートメント。

あらかじめ駅の売店で買っておいた二鍋頭(2合瓶くらいで7元=100円ほど)をちびりちびり始める。同じ蒸留酒(白酒)でも、茅台酒が天下第一の銘酒なら、こちらは北京産の格安焼酎。40度から60度代まで各ランクあり。1997年7月、北京で一と月近く暮らしたとき、毎晩飲んだ。頭が二つに割れるほど強烈だから、二鍋頭といったとか。しかし、これは俗説らしく、そもそも蒸留酒を造るには加熱と冷却の二つの蒸留器(=鍋)が必要なので、この名がついたようだ。

たしか張家口あたりまで舐めて、上段ベッドに倒れ込む。

を把握しようとするものです。多くの課題を発見できる本ですが、ビジネス(経済学)の視点からの論点も多くあります。今回は、その中でも所有権に注目して、スウェーデン北部でのマツタケビジネスの現状と課題をご紹介します(長坂さんがスウェーデン農科大学に留学していた2013年時点の情報を基にしています)。

長坂さんは2011年冬から12年の夏までと、2013年の冬から2016年の春までドイツ・ゲッティンゲン大学森林学部に、その間の1年間スウェーデンのマルメ近くの大学に留学していました。ヨーロッパで森林学を学んだ体験談などもご要望があればお伝えします。

大同緑化協力 25年の軌跡

水不足はウソだったのか?

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で22回目です。(高見邦雄)

旧聞ですが、2020年2月4日の朝日新聞にマイケル・ピルズベリーという人のインタビューが載りました。アメリカ国防総省顧問で、トランプ、ペンス正副大統領も彼の主張を重視しているそう。

「中国政府は1990年代半ばから『水資源は少なくなり、食料や石油も不十分。環境汚染は深刻で、農村ではがん患者が増えている』と強調するようになった」(中略)ところがそれはウソで、「このころ高まっていた中国脅威論を打ち消すために流した作り話だったのだ」というのです。

政治向きの話とはともかく、私は中国の水問題をしつこくレポートしました

ので、その真偽を検討すべきでしょう。

1990年代から2000年代初めにかけて、大同では早魃が頻発しました。年間降水量は平均400mmですが、多い年で650mm、少ない年は200~250mmになります。西暦の奇数年はいい年がなく、なかでも1999年は「建国以来最悪の早魃」、2001年は「百年に一度の大早魃」と呼ばれました。五十年に一度、百年に一度の大早魃が連続するのではたまりません。

丘陵や山間の村では蒔いた種ほども収穫できません。皮だけのアワもおかゆにしたり、ジャガイモから澱粉を搾ったカスをおかゆにまぜるとききました。井戸や湧き水が枯れる村もできました。

飲み水に困る生活をみるにみかねて、つごう3つの村で井戸掘りに協力したのです。

問題を深刻に感じたのは、大同が、そして新しい協力地の河北省蔚県も、北京の水源地にあたるからです。大同市の中央部を横切る桑干河は、河北省にはいつて壺流河、洋河と合流し永定河と名を変えます。蔚県に広大な湿地をつくっているのが壺流河で、途中で北に進路を変えて桑干河に合流します。

永定河を河北省と北京市の境界でせき止めるのが官庁ダムです。密雲ダムとならび北京に2つしかない重要な水ガメの1つでした。その官庁ダムの水が激減し、水質も悪化して、上水道に使えなくなったのは1997年です。2004年春、私は官庁ダムの北岸をみましたが、水際は本来のそれから1km以上も後退し、乾いた湖底でトウモロコシやブドウなどが栽培され、水際近くには死んだ貝の殻や



早魃の年のトウモロコシ畑

腐った水草が散乱していました。

協力の場が張家口市蔚県に移って毎回、官庁ダムを経由します。野鳥の調査では重要な観察点です。水が増えたんですね。ヤナギやポプラが水没しています。水に浸かった建物さえあります。明らかに水が増えています。

2000年代後半から深刻な早魃を耳にしませんので、雨が増えている可能性があります。また2014年末に南水北調の中ルートが完成し、長江の支流・漢江の丹江口ダムから大量の水が北京はじめ華北の都市に届くようになりました。その2つはたしかですが、ほかに原因があるのか、私にはわかりません。

2010年代前半までは官庁ダムの水が減り、近年回復していることはたしかです。GoogleEarthの写真でも一目瞭然でしょう。

会報『緑の地球』を電子版でお届けします

現在、ご希望のかたにGENの会報『緑の地球』の電子データをe-mailでお届けしています。

経費と資源の節約にご協力いただける方、また、印刷物がたまって困る、パソコン等で気軽に読みたいという方は、GEN事務所までお名前と会報送付アドレスをご連絡ください。次号よりPDFファイルにて送付します。



2017年12月の官庁ダム



2020年12月の官庁ダム



故宮の城壁にて

参加者募集 GEN 関東フランチ オンライン月例会

GEN 関東フランチオンライン月例会は毎月第4土曜日におこなっています。ウェブ会議システム Zoom を利用するので、どこからでも、どなたでもご参加いただけます。

月例会の案内は関東フランチのメーリングリストから発信されますので、興味をお持ちの方はメーリングリストへの登録をお願いいたします。登録希

望の方は上田信さん (ueda@rikkyo.ac.jp) までご連絡ください。

【11 月度月例会】

11 月度の月例会は9月におこなったマツタケ読書会の第2回目です。

○日時：11月28日(土)15時~18時45分

○話題提供：長坂健司さん(GEN 世話人)

○タイトル：「マツタケ山は誰のもの? 所有権の観点から見たマツタケビジネス」(変更の可能性あり)。

読書会の指定図書『マツタケ~不確定な時代を生きる術~』(アナ・チン著/赤嶺淳訳/みすず書房)は、様々な観点からマツタケを取り巻く課題



新・里山講座

第5回 2021年1月開講  
受講生募集

大阪の里山で自然を守るための知識と技術、生物多様性について学びます。

○日程：1/10 午前開講式「保全協会が目指す里山とは」常俊容子氏、午後「森林のしくみ」藤原宣夫氏／1/31 「里山保全事故事例・KYK」「応急手当短期講習」日本赤十字社大阪府支部／2/7 紫金山フィールド見学「下草刈り・道具手入れ」武田義明氏／2/16 「人の暮らしと里山」佐久間大輔氏／2/27 奥の谷フィールド見学「人工林間伐」田淵武夫氏／3/6、13 五月山フィールド見学「植生・毎木調査の必要性と方法」「毎木調査」「森作り企画」「森づくり」座学：土生陽子氏、実習：中川勝弘氏／3/20 歌垣クリ園再生フィールド見学「植樹」大阪みどりのトラスト協会、大阪自然環境保全協会／4/11 高代寺山フィールド見学「竹林間伐」伊藤温夫氏／4/24 「竹炭焼き体験」米田彰一氏／5/3 葉室里山フィールド見学「お茶摘み・お茶づくり体験」小路公之／5/9 「里山保全と生物多様性」「里山活動グループ紹介」「修了式」田淵武夫氏

○募集人数：20名（先着順）

○受講料：一般 20,000円、学生 15,000円

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

○申込み方法：氏名、住所、所属、連絡先（電話、ファクス、e-mail）をご記入のうえ、はがき、ファクス、e-mailでお申込みください。

○主催・申込み先：（公社）大阪自然環境保全協会 新・里山講座係（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: office@nature.or.jp URL: http://www.nature.or.jp/index.html

内 203 田中農園 田中隆一さん (tel./fax. 0887-29-2500 e-mail: tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

※売り上げの一部を寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。

南京軍事法廷と東京裁判

南京の記憶をつなぐ2020  
ドキュメンタリー上映・講演・トーク

南京事件裁判の実態に迫り、戦犯裁判の意義と限界について考えます。

○日時：12月5日（土）13時45分開演（13時15分開場）

○会場：エルおおさか南館5階ホール（大阪市中央区北浜東3-4 大阪メトロ/京阪「天満橋」駅より西に300m）

○資料代：1,000円（学生500円）

○定員：110名（先着順）

○プログラム：ドキュメンタリー映像『東京裁判と南京－大きな溝を乗り越える』（2015年上海外語頻道制作）50分／講演とトーク『中国国民政府の戦犯追及方針と南京裁判』講師伊香俊哉氏（都留文科大学教授）

★お願い：新型コロナウイルス感染予防のため、マスク等をご準備ください。風邪気味のかた、熱や咳がある方はご遠慮願います。

○主催・問合せ：南京の記憶をつなぐ2020（連絡先：090-8125-1757）

おいしいポンカン  
いかがですか

★甲浦ポンカン（低農薬・動物性有機肥料のみ使用）

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A 2L/3L 5kg 30個前後 4,200円

B 2L/3L 3kg 20 〃 2,800円

C L 5kg 35 〃 3,900円

【普通箱入り】

D 2L/3L 5kg 30 〃 3,800円

E 2L/3L 3kg 20 〃 2,500円

F L 5kg 35 〃 3,300円

【家庭用】

G 5kg 33 〃 2,800円

ゆず酢 4合瓶2本入り 4,000円

※出荷：12月10日～2月下旬

※送料別途。20kgまで関西880円、関東・甲信越990円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河